



日本実験動物技術者協会 東海支部会報

2008 年 1 号 (通算 30 号)

目次

1. 開催のご案内

- (1) 『実験動物と動物実験 基本的動物実験手技(第1回)』・・・2

2. 報告事項

- (1) 第34回日本実験動物技術者協会東海支部総会・・・3
(2) 3支部(関西・北陸・東海支部)交流会・・・4
(3) 平成20年度 第1回役員会・・・6
(4) 日本実験動物科学技術2008・・・6

3. その他

- (1) 新役員ご挨拶・・・6
(2) 年会費について・・・10
(3) HPのサーバー移行について・・・11



1. 開催のご案内

(1) 『実験動物と動物実験 基本的動物実験手技(第1回)』

本部共催

日程： 平成20年8月23日(土)～8月24日(日) 2日間
23日(土) 13:00～17:00
24日(日) 9:00～17:00 終日

会場： 愛知県豊明市杓掛町田楽ヶ窪 1-98
藤田保健衛生大学 医学部 1号館内

講習内容：

- | | |
|---------------------------|--------|
| 1) 実験動物概論 | (講義) |
| 2) 動物実験倫理 | (講義) |
| 3) マウス・ラットの取り扱い | (実技講習) |
| 4) マウス・ラットの保定と個体識別 | (実技講習) |
| 5) 麻酔、投与、採血、採尿等の実験手技 | (実技講習) |
| 6) マウス・ラットの解剖、臓器摘出方法、安楽死法 | (実技講習) |
| 他 | |

定員：20名

参加資格：実験動物に関連した業務の方(会員以外の方の参加も可能)

対象：動物実験を始めて間もない方、動物実験の基礎を確認したい方

会費：10,000円(一般会員および賛助会員の機関に所属する非会員)
20,000円(非会員)

* 参加費には24日の昼食(弁当)代を含みます。

東海支部では今年度より、題記講習会を逐次実施していきます。

この講習会では、実験動物技術者として欠くことのできない基本的な技術の習得・向上を中心とし、動物実験における技術者の重要性、技術者の心構えなど、日常の業務にすぐに反映できる講習会を目指しております。また、実技研修を通して皆様方の交流の場が提供できればと思っています。多数の皆様方のご参加をお待ちしております。



2. 報告事項

(1) 第34回日本実験動物技術者協会東海支部総会

日 時 : 平成20年4月19日(土) 13:30~17:00
会 場 : 名古屋大学医学部基礎医学研究棟 1F 会議室

添付資料の通り承認されました。



【総会の参加者からの感想】

実技協東海支部総会・研究会の感想

名古屋大学 環境医学研究所
森ララミ

今回初めて東海支部総会・研究会に参加させていただきました。今回の研究会では、実験動物を管理するうえで非常に興味深い「水」がテーマでした。

はじめに、日本ミリポア株式会社の犬塚先生からバイオ実験系に不可欠な純水・超純水についての講演がなされ、純水・超純水の性質や精製技術の違いなどをわかりやすく紹介していただきました。普段から使用している水だったのですが、知らないことばかりで大変勉強になりました。次に、株式会社夏目製作所の飯塚先生より実験動物への給水システムに関する様々な製品・装置が紹介されました。それぞれの製品・装置の利点や問題点を含めた話を聞くことができ、こちらも大変興味深い内容でした。特に自動給水方式については、後のフリーディスカッションでも話題になるなど、関心の高い内容だったと感じました。最後に、大学や研究機関から飲料水に関する事例が3件紹介され、フリーディスカッションが行われました。共通の問題に対して様々な注意点や対応策が議論され、大変参考になりました。

本研究会は実験水・飲料水に対する考え方を見直すいい機会になったと感じ

ています。このような機会を与えてくださった講師の方々に深く感謝いたします。

(2) 3支部（関西・北陸・東海支部）交流会

下記の日程で、第1回3支部交流会が開催されました。

日 時：平成20年3月29日（土） 10：00 ～ （受付開始 9：30）

場 所：キャンパスプラザ京都 4階第3講義室

【実技協・三支部交流会プログラム】

特別講演Ⅰ 「AAALAC、第三者評価・・・

でも、その前に自己点検・評価！」

笠井 一弘（有限会社リジョイス）

技術者教育における動物福祉提言

「倉敷芸術科学大学生命動物科学科カリキュラムにおける動物福祉論
についてー「動物が好き」から「動物の専門家」を目指してー」

北 徳（倉敷芸術科学大学 生命動物科学科）

日動協認定制度紹介

「平成20年度から実験動物技術者認定制度が一部変わります」

大和田 一雄（社団法人日本実験動物協会）

技術交流会（東海支部主催） 「環境モニタリングについて」

特別講演Ⅱ 「実験動物施設の建築・設備計画の動向」

小川 景一（千代田テクノエース株式会社）

特別講演Ⅲ 「動物管理に求められるリスク管理一般論」

櫻井 康博（アステラスリサーチテクノロジー株）

【交流会の参加者からの感想】

三支部交流会の感想

岐阜大学生命科学総合研究支援センター
動物実験分野 大山貴之

今年3月に京都で行われた、関西支部・北陸支部・東海支部が合同で行う三支部交流会に参加いたしました。この三支部交流会は支部間の交流を推進しようと、関西支部の提案から始まりまして、東海支部からも演者や座長として数名の方が参加されていまして。会の開催日より少し日にちが経っておりますが、参加した私の感想や交流会の内容を少しご紹介したいと思います。

内容は特別講演として、施設管理や資格認定制度、また技術者教育について講演があり、その後、技術交流会として環境モニタリングについての実例紹介等がありました。

最初に行われた特別講演Ⅰでは、「AAALAC、第三者評価・・・でも、その前に自己点検・評価！」という演題で、有限会社リジョイスの笠井一弘先生の講演がありました。第三者評価を誰がどのように行うか、またその前に自己点検・評価をしてみると、機関内規定には書かれているものの実際にはできていない部分が出てくる、といったお話の中で、「プロの仕事というのは自分の仕事の責任を良く理解し、責任を持ってするものである。」という言葉がありました。例えば、動物実験を行う各機関の機関内規定が、きちんと行われているか確認するのが動物実験委員会の役割であり、研究者は3Rの実践と、自身の研究が一般に分かるように説明する責任がある。また技術者は一定で適切な飼育管理を行い、動物を健康に飼育する責任がある、といわれていました。新米の大学技術職員である私は、この話を聞いて自分の果たすべき責任の範囲や優先順位について、もう一度よく考える必要があると思いました。

次に倉敷芸術科学大学の北徳先生から、「倉敷芸術科学大学生命動物科学科カリキュラムにおける動物福祉論について」－「動物が好き」から「動物の専門家」を目指して－という講演がありました。倉敷芸術科学大学生命動物科学科では、1年次前期に動物福祉論の講義を行い、これから「動物の専門家」＝「動物福祉の専門家」への険しい道に向かう学生に、動物と人との関係について考えさせ、迷い悩みながら動物とのより良い関係を目指そうとしている。というお話でした。私は「動物福祉」というのは、どのように動物を扱うのがベストか考えながら動物と接するという姿勢だと理解したのですが、我々人間は愛玩動物・家畜・実験動物といった様々な形で動物を利用しており、その動物が属しているカテゴリー別に処遇が全く違ってきます。そうすると、おそらく動物福祉もそれぞれ違った形になり、私は実験動物に携わる者として、実験動物の福祉を・・・どのように扱うのが実験動物にとってベストなのか、を考えながら業務にあたることの必要性をあらためて感じました。

その後、午後より環境モニタリングをテーマとして、技術交流会がありました。その中で環境モニタリングの実例紹介を、東海支部より第一三共株式会社の金原保弘先生が、製薬企業の立場からということで、自社の動物実験施設で適用されている環境条件と測定方法を紹介され、また同じく藤田保健衛生大学・疾患モデル教育研究センターの羽根田千江美先生が、大学の立場からとして環境モニタリングの意義や測定方法を詳細に説明されていました。私の勤める岐阜大学の動物実験施設で定期的に行っているのは温湿度ぐらいで、その他の項目については、これからやっていこうと考えていましたので、お二人の発表は大変参考になりました。

この後、特別講演Ⅱ・Ⅲと続き、諸先生方の貴重なお話を聞くことができました。

またその後の懇親会でも、普段会うことのできない他の支部の方々にお会いでき、話をすることができまして。私にとって大変有意義な1日となりました。文末になりましたが、交流会の準備をされた三支部の皆様お疲れ様でした。

(3) 平成 20 年度 第 1 回役員会

日 時：平成 20 年 4 月 19 日（土） 10:00～12:00

場 所：名古屋大学医学部 基礎棟 1 F 会議室

議 題：

1. 支部総会・研究会について（当日午後の予定）
（平成 19 年度報告、決算、平成 20 年度計画案、予算案等々）
2. 第 41 回名古屋総会決算報告
3. 理事会報告

(4) 日本実験動物科学技術 2 0 0 8

Conference for Laboratory Animal Science and Technology 2008

日 時：平成 20 年 5 月 15 日（木）、16 日（金）、17 日（土）

会 場：仙台国際センター

〒980-0856 宮城県仙台市青葉区青葉山（無番地）

<http://www.sira.or.jp/icenter/>

3. その他

(1) 新役員挨拶

今年度は新しく東海支部役員になられた方が多数おられます。役員になった豊富等のコメントをいただきました。

【新役員挨拶】

日本実験動物技術者協会 東海支部役員になって

名古屋大学環境医学研究所
近未来環境シミュレーションセンター 伊藤麻里子

今回、東海支部役員にさせていただいたのは昨年度第 41 回日本実験動物技術者協会総会が、名古屋で行われるにあたって、実行委員にお願いされたのが、きっかけのように思います。協会そのものに入会したのは今から 2 年ほど前で、東海支部の方に初めてお会いしたのは京都の総会の時でした。その時はすでに次年度は名古屋でということでしたので役員のみなさまは、とくに総会の運営について観察されていたように思います。その頃私は協会に入ったばかりで、

そこまで考えることはありませんでした。年明けに、名古屋での総会の大会長より、実行委員の依頼がありました。私にお手伝いできることがあるかどうかは謎でしたが、東海支部を広い意味で理解するにはよい機会と思い、引き受けました。実際、実行委員になって、皆さんが準備しているのを理解するので私は精いっぱいでした。それにしてもみなさん、日常の業務もこなしつつ、総会の準備も積極的に行っているようでとても感心しました。名古屋での総会の当日も参加者が有意義に過ごせる様、配慮されている様子がいろいろな場面で見受けられ、感心の連続でした。また、総会が終了した後も反省会等でお会いする機会があり、総会や東海支部のことだけではなく、実験動物に関する様々な情報をいただくこともありました。

総会も終了し、日常の生活？に戻ったある日、支部役員への依頼をいただきました。私一人では何もできませんが、他の役員のみなさまにご協力できればと思い、役員にさせていただきました。

まだまだ、実験動物のことも東海支部のこともよくわかっていない初心者です。今後ともご指導、ご鞭撻を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

東海支部新役員挨拶

岐阜大学生命科学総合研究支援センター
動物実験分野 大山貴之

私は平成17年に、それまで勤めていた大阪大学医学部附属動物実験施設より、岐阜大学生命科学総合研究支援センター動物実験分野に移りまして、それと同時に所属支部も東海支部になりました。

私の出身は九州の長崎で、これまで東海地方に来たことがなく、岐阜大学に来た当初は本当に右も左も分からない状態でした。その頃東海支部では第41回全国総会の準備が始まっておりまして、私にもまもなく小木曾大会長から実行委員としての参加要請をいただきました。「えらい時に来てしまった。」と思いましたが、それまで岐阜大学は人がおらず参加できていなかったこともあり、これからは岐阜大学も東海支部の一員として協力せねばと考え参加致しました。

私は全国総会の実行委員という役目も初めての経験でしたので、何をしたらよいのかさっぱり分からない状態でしたが、B会場の担当になりましたので分からないながらも勢いで準備を進めました。そのような状態でしたので、色々といらない点があったかと思いますが、なんとか自分の役目を果たすことができたのは東海支部の皆様や手伝っていただいた他支部の方々のご指導とご協力によるものと感謝しております。

この度は、東海支部役員という新たな役目をいただきまして、微力ながら東海支部の皆様の役に立てるように努力したいと考えております。今後ともご指導ご鞭撻のほど、よろしくお願い致します。

私の動物実験再出発

藤田保健衛生大学藤田記念七栗研究所
生化学研究部門 千原 猛

本年より皆様方のお仲間に加えていただきます藤田保健衛生大学藤田記念七栗研究所（所在地：三重県津市）の千原と申します。まだ何もわかりませんが、精一杯努力する所存ですのでご指導の程、お願い申し上げます。またこの場をお借りし、私にお声をかけてくださった、高橋久英支部顧問、小木曾 昇支部長に深く感謝申し上げます。

さて、「動物研究からヒト研究へのリンケージ」、「発がん研究から予防の実践へ」、これらは第8回日本がん予防研究会（2001 現在は日本がん予防学会）および第62回日本癌学会総会（2003）の基調講演およびパネルディスカッションの1テーマであります。これらのテーマにあるように、近年様々な学会で、がんの化学予防において、動物実験の結果をヒトでの研究へいかに応用するかが議論され続けています。

おこがましいかもしれませんが、私の使命は、動物実験を進めることにより、たくさんのデータを正確に速く得、その結果を社会へ還元することだと思っています。しかし、今までの自分はどうかだろうかと振り返ってみれば、動物実験はするものの、「もっと手技の向上に努めていけば・・・」「文献を詳細に検索していれば・・・」など、反省すべき点ばかりです。

そこでこれを機に、私の動物実験を見直す再出発の日とし、三重県より、より有用な情報を発することができるように、そして動物実験をヒト研究へとつなぐことができるように、今まで以上に努力をしたいと思います。

東海支部の皆さま、よろしく願いいたします。

中部大学
実験動物教育研究センター 長原美樹

中部大学 実験動物教育研究センター所属の長原と申します。この度、東海支部の役員に任命いただきました。わたしで務まるのか？という思いで一杯ですが、早く一人前になれるチャンスだと思って、精一杯がんばりたいと思います。本大学の実験動物施設は、平成18年に新しくできた施設で、立ち上げて今年で3年目となります。センター長の下で、研究員1名、技術職員2名ならびにアルバイト3名で運営をしております。学内だけですと情報がほとんど入ってこない状況ですし、大学のアピールにもなるよう、できるだけ多くの場所へ出るようにしております。その点、東海支部に所属していることで情報交換ができ、ありがたく思っております。

私は東海支部に所属してまだ間もないですが、昨年度、名古屋で、第41回日本実験動物技術者協会総会が開催された折には、微力ながら実行委員としてお手伝いをさせていただき、貴重な経験をしました。初めての実行委員でがんば

らないと！という気持ちが空回りしてしまった感がありましたが、忙しい仕事の合間をぬって、実行委員の皆さまと苦労を共にでき、印象深い学会でした。ポスター会場を担当しましたが、計画と本番ではかなり異なり焦った面もありましたが、無事に終わってほっとしています。

いままでは、民間企業や大学等で、毒性試験全般、飼育管理、病理組織検査などを担当しておりました。現在は、所属する大学の実験動物施設で飼育管理および管理運営業務をしています。私個人としましては、今年度は実験動物技術者1級試験合格を目指して勉強中です。

飼育管理の経験は浅く、実験動物に関することは、まだまだ勉強しなければならないことがたくさんありますが、微力ながら東海支部のお役に立てられるよう精一杯努力いたします。

東海支部が、実験動物を扱う方々の交流の場になるよう、支部の皆様と一緒に楽しく盛り上げていきたいと思っております。今後ともよろしくお願い申し上げます。

東海支部役員として

藤田保健衛生大学
疾患モデル教育研究センター 羽根田 千江美

第41回日本実験動物技術者協会総会が名古屋で行われることになった際に、HPが多少触れることで実行委員に推薦していただき、仲間入りさせてもらった。準備期間から9ヶ月あまりの短い時間であったが、大変有意義で得るものも多かったと感謝している。

そのご縁でそのまま東海支部役員をやらせていただくことになった。大昔藤田保健衛生大学で2級試験の実技講習会をやっていた頃に多少なりとも関りがなかったわけではないものの、積極的に支部活動や全国総会に参加するようになったのは2002年からで、ましてや支部役員の仕事などまったく未知の世界に等しい。支部の大先輩たちの苦労も軌跡もまるでわかっていない新参者にしか過ぎない私であるが、それでも持ち前の図々しさで、まるで何年も前から居座っているような大きな顔をしているけれど、実は何もできない小心者である。実際にどれくらいのお手伝いができるかも怪しいところで、ただせっかく縁あって仲間に入れてもらった以上はできる限りの努力はしたいと思う。

昨年の総会実行委員から引き続いて支部役員をやることになり、他の施設の方たちの知り合いも増え、情報交換や施設見学の機会もたくさんいただいた。大学という性格上、閉鎖的で他施設とのコミュニケーションはとりにくく、また井の中の蛙のように周りを見渡す目も持っていない傾向がある。役員という立場を通して自身の見聞を広げるとともに、自己研鑽に勤めていきたいと思う。そしてそれを支部に還元できたら嬉しく思う。

1年間よろしくお願い致します。

私と「技術者協会東海支部」との関わり

一丸ファルコス株式会社
開発部 研究開発課 前田宗紀

今年2008年度の東海支部役員になりました、一丸ファルコス株式会社の前田です。

東海支部との関わりは上司（課長）が技術者協会の会員であったことから、郵送されてくる技術交流会に参加したのがきっかけでした。

9年前に岐阜で全国総会があったときには当日のスタッフとして参加し、そのときに東海支部の幹事の方に自分を知っていただきました。その当時に一度、幹事の要請があったのですが、当時の上司（部長）が「実験動物技術師1級（当時はまだ名称が「師」の時代です）を取得したら考えてやってもいいよ」と断りの返事をした様です。

2～3年前より、小木曽支部長より出会うたびに幹事の要請を受けていました。やってはみたいものの、会社の許可なしには出来ませんので断っていました。

しかし、2007年7月に名古屋で41回総会を行うにあたり、「実行委員」として総会に最後まで関わる事が出来、さらに今年は念願の「実験動物技術者1級」に合格できました。これまで東海支部の行事に積極的に参加をして情報を吸収し、色々な方にお世話になっていたのも、「これからは技術者協会に恩返しをしていく」ということで、会社の許可をもらい、東海支部の幹事を正式に受けることにしました。

東海支部役員になったことにより、恥ずかしくない知識と技術、経験を他の方々に提供できる様に日々努力をしていきますので、よろしくお願いいたします。



皆さん、1年間よろしくお願いします。

（2）年会費について

本協会は会員の皆様の会費により運営されています。本年度の会費が未納の方は至急お振込みをお願いいたします。

年会費：6,000 円

振込先

名 称：日本実験動物技術者協会

口 座：00130-9-102291

取扱機関：落合郵便局

(3) HPのサーバー移行について

現在支部HPは、Infoseek の無料HPスペースを利用して運用されていますが、このたびオリジナルドメインの取得およびHPをより充実させるためにサーバーを移行することにしました。HPの移行は7月上旬の予定です。新しいHPのURLは追ってお知らせいたします。
HPでは支部活動などHOTな情報を随時掲載していきますので、HPをますますご活用くださいますようお願いいたします。



Japanese Association for Experimental Animal Technologists TOUKAI-branch

<東海支部事務局>

〒501-6195 岐阜県各務原市川島竹早町1

エーザイ(株)安全性研究所川島研究室内(担当: 森 郁夫)

TEL: 0586-89-4722 FAX: 0586-89-5482

e-mail: i-mori@nhc.eisai.co.jp

HP: <http://jaeat-tokai.hp.infoseek.co.jp/>

2008年 7月 No. 30 発行者: 小木曾 昇

発行所: 日本実験動物技術者協会東海支部